

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800271		
法人名	医療法人社団 壮志会		
事業所名	グループホーム らくらく		
所在地	長崎県松浦市御厨町里免397番地11		
自己評価作成日	平成29年6月30日	評価結果市町村受理日	平成29年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成29年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内が明るく清潔で家庭的な雰囲気 母体が病院なので医療との連携がとれている その人その人に合った支援をしている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在の入居者は比較的介護度が軽い方が入居されており、意思疎通の面や各種の行事への参加等、日々の生活においてグループホームとしての活動が実現できている。職員同士の関係性も良好で、風通しの良い雰囲気があり、活発に意見を交わしながら活いきとした勤務ぶりが窺え、入居者への支援に繋がっている。退職した職員がボランティアで来所して入居者と交流したりするほか、入居者家族がホームに就職する等、アットホームな関係づくりができてい事業所でもある。母体が医療機関であり、系列の訪問看護事業所の支援も行われ、医療面でも連携した対応がなされており、入居者や家族にとっても安心感につながっていることが窺える。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームらくらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し楽しく生活ができるよう支援している	開設時に法人関係者で作成した理念であり、リビングに掲示すると共に管理者が口頭で理念に含まれる想いを伝えている。	理念に基づき、ホームとしてどのように支援に活かしていくのか等話し合い、例えば理念や方針に基づく目標を具体的に掲げる事で、職員間での共有に繋がるものと思われまます。ご検討をお願いします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加、作品を出品したりしている。時々買物に出たりするが、高齢者が多く外出も難しくなっている	民生委員が推進会議のメンバーで、地域情報等の提供がある。公民館祭りには入居者作品を展示するほか、街フェス訪問等で交流されている。ホーム主催の祭り、敬老会へポスター配布等で地域の方々へ案内を行っているが参加は厳しい状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事等でオープンにしているがなかなか難しい。 面会に来られた方や、ご家族に認知症の理解につながる話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況の報告等を行い、他のホームではどうされているのかをお尋ねしたりしている	民生委員、入居者、家族代表、行政職員、他GH職員等参加で行事報告、利用状況、避難訓練を兼ねた会議で夜間対応の連絡体制について、改善点の話し合い等、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議に出席して頂き協力関係を築いている	行政担当者が推進会議のメンバーであり、事例対応について相談を行ったり、包括支援センターのケア会議にケアマネージャーが出席する等連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地条件で玄関だけ施錠しているが、個々の要望に応じれるよう行動を共にし、拘束しないよう取り組んでいる	前回評価時に提案した同意書は作成済みであるが、該当者はおられない。転倒防止の為、夜間センサーマット使用については、ケアプランの支援内容に掲げ、家族から同意を得ている。玄関の施錠については危険回避でやむなく行っており、家族には説明し理解を得ている。外部からの出入りは自由に出来るようにされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体への虐待はないが、言葉が感情的になることがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされている方がおられない。 活用できるよう支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時話し合う場を持ち、十分に説明し、理解・納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時で話しやすい関係を作っており、意見・要望を伺っている。 電話でお聞きすることもある	毎年1回家族へ選択形式でアンケートを行い、結果を職員と話し合い、支援に活かされている。現在、入居者全員意思表示ができ、入居者それぞれの意見は送りノートや支援記録等に記録し、共有されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで意見を出し反映できている	全員参加のミーティング及び随時の気づきは在籍する職員で協議されており、支援に必要な事項は、会議録等に記録されている。身体状況の変化で、ベッドからの立上り時、現在のベッド柵では難点があった為、柵の変更を行う等、職員意見を反映されていることが窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が増え働きやすくなり、ホームの入居者の事も考えて下さっている。 給料は少なく向上心はなかなか出ない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近くでの研修は行けるようお願いしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営会議で交流する機会を作り取り組んでいる こちらからも出張していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族に伺った話をもとに、本人に寄り添いゆっくりお話をお聴きし、安心してもらえるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時等ゆっくりお話をお聴きしたり面会に来られた時等お話しし、安心してもらえるよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、本人・家族の意向を伺い、それに沿ってすぐにプランを作り、サービスをスタートさせている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事をして頂き、暮らしを共にする関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話でお話したり、外泊・外出・受診の付き添い・行事の参加もお願いし一緒に支えていっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出をお願いしたり、自宅へ仏様参りに行ったりしている	家族からの聴き取りや日々の生活の中で知り得た情報を支援記録に残されている。趣味のグランドゴルフに出掛ける等支援に役立っている事例を窺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の行動を教えて下さったり、新しい方に話しかけたりされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご家族が来られる事もあったが、新しい方が増えた為か、遠ざかったがこれまでの関係性を大切に相談や支援に努めている。ご家族が職員になられた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の思いに沿って生活してもらいたい。難しいことも多々あり、できるだけ近づけるよう検討している	思いを把握する為に、職員による推測を交えた会話で意向を汲み取るよう努められている。問題行動等イレギュラーな行動については、ケア会議の中で話し合い対応方法を検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネさん・サマリー(基本情報)・家族のお話を通して本人を知る努力をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日、一日の出来事・気づきを申し送りノートに書き、全職員で把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のサービス担当者会議でモニタリングし、話し合いは活発に行われている	実施記録に基づき、入居者毎の担当者が評価を行い、在籍職員参加の担当者会議の後ケアプランを見直されている。見直し後のプランを家族へ説明し、意向を伺った上で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を個別に記入し職員間で情報を共有し、実践へ反映・見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じモニタリングし、取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加するくらいで、地域資源がどんなのがあるか探し支援していきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医院なので受診は職員が支援している。 他の病院への受診は家族へ協力して頂く場合もある	母体病院の定期受診、系列訪問看護が週一で実施されている。突発的な容態変化時は職員が受診に同行し、家族には電話にて連絡し情報を伝えている。母体病院以外の受診時は薬手帳、カルテを持参されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきをノートに記し全職員で把握し、週一度の訪問看護時に相談し適切な受診を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎日病室へ行き、全職員と情報を共有しており、家族・本人に安心して頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にお尋ねしている。 ホームには看護師がおらず、重度化・終末期は医院の方が殆どだ	看取りについては、医療行為発生の時点で母体病院での対応となる旨の同意書を作成されており、入所時に説明している。ホーム内で、医師の指示の下、訪問看護師が対応する場合も想定はしているが、その都度家族と協議する事としている。	看取りの同意書は作成されており、家族への説明も行われているが、同意した証として署名押印いただいております。ご検討をお願いします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、医院へ直ぐに連絡し指示をうけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災避難訓練は年二回行っており、未然に防ぐためにも夜間はガスの元栓を閉めたりと、対策している 火災通報装置に地域の方にも協力を得ている 水害等の避難訓練も二階に上げるなど訓練を行っている	毎年2回の避難訓練を行っており、うち一回は消防署立合いである。川の氾濫を想定した自然災害の訓練も実施されており、自主点検チェックリストも作成し管理者が点検されている。近隣の商店2軒と通報装置登録先として協力いただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その人その人に合わせた言葉かけをしている	入浴、排泄等支援の場面では羞恥心に配慮した支援が行われている。職員に対する接遇、マナー研修等も機会があれば出席し、会議を通じ共有されている。	ホーム便りへの入居者写真掲載については、現在、家族へ口頭にて了解いただいているが、個人情報保護の観点や管理上、同意書を得ることが必要と考えます。検討をお願いします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をお聴きし自己決定ができるよう心がけ言葉かけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人が自由に過ごせるよう支援している 職員側の都合を優先するときもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染希望がある時は、美容室へ行くなど支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事をできる方にお願ひし、準備・片付けをしている	前日と重複しないよう職員間で話し合いながら、肉類、魚類等バランスを考え、職員が当番でその日の献立を決定している。入居者も簡単な調理、配膳下膳等手伝わられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が減ったりした時は、ライフチャートに記入し全職員で共有し水分摂取もこまめに行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後コップ・歯ブラシを用意し出来ていない方等声かけしケアしている 週一回ポリデント洗浄も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの使い方がわからない方は夜間コールマットを使用し付き添い、見守り・声かけを行い失敗をなくすよう支援している。失禁パンツ・尿パッド・紙パンツを夜間だけ使用し失敗せずプライドを持って生活できるよう支援している方もいる	介護度が低い入居者が多く、夜間帯は1名が自立、ポータブル使用とトイレ誘導での対応がなされている。紙パンツ使用の方に対して布パンツへ移行できるよう支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動を行っているが不足分は下剤を飲まれている方・牛乳を飲まれている方もおられる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めてあるが希望により無理強いはせず。お湯の熱さ等希望に沿って支援している	性差で入浴日を分けている。入浴拒否者への対応については翌日入浴も可能であり、異性介助に抵抗がある入居者にも配慮されている。入浴順についても湯温との兼ね合いで調整されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人自由に眠られ、朝は声かけしているが事由に起き日中も自由に休まれたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書を頂き理解に努め服薬支援を行い、症状の変化の把握にも努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割を持ち生活され、庭に野菜を作ったりし楽しみにされる。ドライブに行くなど気分転換の支援も行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば買物・郵便局等出かけたり、自宅へ一緒に行く方もおられる。ご家族の協力ですぐに外出・外泊・受診等される方もおられる	家族と一緒に外泊の機会も多い。馴染みの美容院の利用や受診後の買物等、入居者個々の希望に沿って支援されている。行事の一環で花見等にも出掛けられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が少額のお金を持たれている方もおられるが、施設金庫で管理している。希望時には買い物に出かけたり頼まれる方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で電話をかけたたり、年賀状等出されたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りや、小物を置いたりしている。居間は程よく光が入り居心地良くバルコニーにベンチを設置し日光浴をされたりしている	リビング壁面は季節を感じる飾り付けがあり、入居者の相性、動線に配慮した椅子、テーブルの配置も行われている。陽射しについてはカーテン、窓の開閉による通風、エアコン使用等で適温に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに横になったり思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の小物やテレビを設置し、居心地良く過ごせるよう工夫している	ロッカー、小灯台、ベッドは備付けしているが、愛用の物は持込み可能である。火気類、危険物などの持込みは不可であり、入居時に説明されている。室温、湿度、換気にも配慮され居心地の良い居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段は段差を低くし、手摺を使い昇降も安全に行われている。リハビリも兼ねている		